



1月14日、成人式が開催されました。新成人750人のうち580人が出席し、大雪が降る中、会場は晴れ着姿の新成人でにぎわいました。文化会館にて。

騒音などに問題がなければ P-1受け入れは可能では

新政会 笠間 昇

問 厚木基地では、老朽化しているP-3C哨戒機の後継機である、P-1の試験飛行が行われている。この飛行機はジェット機だが、P-3Cより安全で騒音も小さいと聞いている。国からどのような説明を受けているか。昭和46年に通知された「46文書」には、自衛隊のジェット機は

厚木基地を使用しないという項目がある。しかし、41年が過ぎ、飛行機の主流はプロペラ機からジェット機に変わった。さらに、領土問題など、日本を取り巻く状況は大きく変化している。安全性や騒音に問題がなければ、P-1の受け入れは可能と考えるが。

答 P-1は、平成20年9月から試験機2機が厚木基地に乗り入れている。国からは

「試験飛行では安全に関わる問題が発生したことはなく、地上試験での不具合も改善している。また、機種変更で航空機騒音の状況が悪化することはない」との説明を受けている。安全性と静粛性への配慮を規定した46文書の趣旨は、基地周辺の市街化が進み、市民の生活環境に大きな影響を及ぼしている現状を踏まえれば、堅持していくものと考えられている。現状認識に立てば、P-3Cの老朽化によるP-1の配備は、総合的に考えるとやむを得ないと考えている。(ほかに「交通不便地域の「足」の確保について」を質問)

渋滞対策や安全対策のため市内の道路を改良しないか

新政会 増田淳一郎

問 寺尾上土棚線の北伸道路が未完成のまま(仮称)綾瀬インターチェンジが開通した場合、市内道路の大渋滞や生活道路への進入車両による事故が考えられることから、対策が必要である。光綾公園前のT字路交差点は、市道1629-1号線の右折レーンに大型車両が停止すると、直進する大型車両の通過が困難で渋滞の原因となっている。光

綾公園側に道路の拡幅や信号柱の移設はできないか。市道2号線の寺尾小学校前は、カーブで見通しが悪く、自転車通学も多いため危険である。比留川にふたをするなどして道路の拡幅はできないか。

答 光綾公園前にある市道1629-1号線と市道12号線の交差点は、車両の大きさによっては通過が困難となる場合もある。現況を確認し、警察と協議した上で、渋滞対策に取り組みたい。また、信号柱の公園側への移設は、歩行者保護の観点から好ましくないと考えられるので、警察とどのような方法が取れるか調整していきたい。市道2号線の当該区間は、沿道の土地利用が進んでおり、道路の拡幅は難しい現状である。現在の道路用地内で改良できないか、カーブの線形を含め、安全対策を検討していきたい。(ほかに「公園の駐車場について」「消防団への支援と消防ポンプについて」を質問)



12月28日、年末野菜直売会が開催されました。訪れた人々は農家と話しながら市内で採れた新鮮な野菜をかご一杯に買っていました。文化会館駐車場にて。

がん検診の受診率向上にどのように取り組んでいるか

公明党 内山 恵子

問 早期のがんは、自覚症状がないため定期的ながん検診の受診が望まれるが、受診率は2割から3割程度である。受診率の向上には、手軽で、自己負担が少ないなど、市民の要望に沿った受診体制の充実が不可欠だと考える。本市では、がん検診を受診しなかった方々に対するアンケートの結果を受けて、受診率の向上に向けた改善を図っている。

と思うが、新たな取り組みはどのようなものか。また、検診時の託児サービスを利用することで、小さい子どもがいる母親は、安心して受診ができる。広くサービスを周知し、今後も継続してはどうか。

答 アンケート結果を受けて、検診時期などを改善したところ、受診者数が昨年度より増加した。本年度の新たな取り組みとしては、来年の1月から3月まで11回実施する検診のうち、4回ほど、骨密度測定を同時に実施する予定である。さらに、厚木市内の医療機関で、日曜検診の実施や複数の検診を同日に受診できるようにするなど、検診を受けやすい環境整備を進めている。また、乳がんや子宮がん検診時の託児サービスは、利用があり来年1月の申し込みもあることから、保育ボランティアの方に協力をいただきサービスを継続していきたい。(ほかに「高齢者の交通事故防止について」を質問)



市の鳥「かわせみ」

いじめや不登校解決にスクールカウンセラーの拡充を

改革フォーラム 佐竹 巨里

問 いじめや不登校は、身近な問題でありながら、原因は複雑で容易に解決できない。さまざまな対策を実施しているにもかかわらず、いじめがなくならない実態と不登校の原因をどう認識しているか。また、本市では、児童・生徒の悩みを専門的に把握して解決に導くスクールカウンセ

ラーが全校に配置されているが、児童・生徒や保護者にあまり認知されていない。周知はどのように行っているのか。これからのいじめや不登校問題に対する支援には、スクールカウンセラーの活用と充実が重要であると考えられる。将来的な拡充を望むがどうか。

答 いじめは、学校内だけでなく、家庭環境や学校外での人間関係など、子どもを取

り巻く環境が複雑になっている中で起こりやすくなっている。不登校の原因は、情緒的混乱や病気が多いが、さまざまな要因が絡み合っていることが多く、本人にも原因が分からないケースもある。また、スクールカウンセラーは、新入生説明会や学校だよりなどで周知している。増員などの拡充は、国や県の財政に関わるため難しいが、より多くの児童・生徒や保護者に対し、周知や働き掛けができるよう、講演や研修など、新たな活用方法の開発を進めている。(ほかに「こどもの社会体験事業について」を質問)